

# 第23期 報告書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

## CONTENTS

- 01 トップメッセージ
- 05 ビジネスナビ
- 07 事業の概況
- 10 IRトピックス
- 11 連結財務諸表
- 13 会社データ
- 15 IR活動の取組み

つくる情熱を、支える情熱。  
**CYBERNET**

## 新中期事業計画のもとに、“ものづくり支援”をミッションとして これまでに蓄積してきたビジネスノウハウと技術力をフルに活かし、 事業拡大の新たな路線を切り拓いてまいります。

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループは“ものづくり支援におけるワンストップソリューションを提供する企業”を  
企業ビジョンとして掲げ、日々技術革新に挑まれている製造業のお客様を

CAEソリューションおよびITソリューションの提供により支援しております。

おかげさまで当社グループは当期におきましても堅調に業績を伸ばすことができました。

2008年4月よりスタートしました新中期事業計画の下、グループ一丸となって、さらなる躍進を  
目指してまいります。株主の皆様には今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

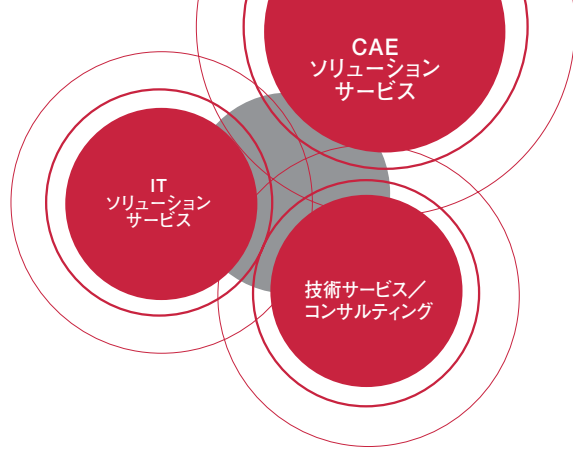
**当期は、売上、利益ともに過去最高。営業利益、経常利益、当期純利益は、計画を上回る業績となりました。**

当期における国内の経済情勢は、サブプライムローン問題に端を発した米国景気の先行き不安、日本国内の内需の不透明感などから当社グループの主要顧客である製造業への影響が懸念されました。しかし、自動車、電機、精密機器業界を中心に新製品開発への取り組みは依然として活発で、当社グループの提供するCAEソリューションへの引合いは堅調でありました。こうした中、当社グループは既存ビジネスの強化・拡大を推進するとともに、新規プロダクトの発掘および新規アプリケーションの開発などに積極的に取り組んでまいりました。その結果、売上高は209億42百万円（前年比10.2%増）、営業利益は29億26百万円（前年比15.2%増）、経常利益は30億85百万円（前年比9.1%増）、当期純利益

は18億10百万円（前年比19.4%増）と、いずれも過去最高となり、営業利益、経常利益、当期純利益は計画を達成することができました。

**従来ビジネスの枠を広げる新たなニーズに積極的に対応、将来につながる成果を得ました。**

当期の主だった動きとしては、コアビジネスであるCAEソリューションについて、制御系分野のMATLAB(マットラブ)およびそのパートナープロダクトの販売が伸びたこと、また受託設計と受託解析のビジネスが好調に推移していることがあげられます。この受託設計と受託解析ビジネスの成長は、2006年5月に営業譲受した京浜アートワーク社のプリント回路基板のシミュレーション技術・設計技術などによるものであり、当社グループはこれらのプロフェッショナルサービス領域で前年比約2倍の売上実績を築くことがで



きました。また、年々多機能化・高機能化する製品開発現場においては、複数のソフトウェアを組み合わせた解析需要が増えつつあります。当社はこれまでに蓄積してきた専門性の高い技術力とノウハウを活かし、当社が取り扱う多種・多様なソフトウェア群を組み合わせたマルチプロダクトソリューションによる最適化のアプリケーション開発に取り組んでおります。国内の製造業を中心に、こうしたマルチプロダクトソリューションの需要が高まってきており、この分野の要と位置付けているOPTIMUS（オプティマス）は前年比約60%増の販売実績を上げることができました。

**米国The MathWorks社との販売代理店契約の終了を節目とし、事業拡大の新たな路線を切り拓いてまいります。**

2008年1月17日にお知らせしましたとおり、1988年より継続してまいりました数値・制御・通信ソフトウェア



代表取締役社長  
田中邦明

MATLABの販売代理店契約が、開発元の米国The MathWorks社のグローバル戦略の一環により、2009年6月30日を以て終了することになりました。2009年3月期の業績への影響はありませんが、当該事業は、2008年3月期において、当社グループの売上高の約37%を占めており、ライセンス販売における業績への影響を受けることになります。しかしながら、当社はこれまで20年間に亘り蓄積してきたMATLABのビジネスノウハウおよび技術力、ならびにその顧客ベースをフルに活用することにより、MATLABパートナープロダクトビジネスへの展開を図り、その販売を強化・拡大してまいります。このパートナープロダクトは、現在世界中で300製品以上開発されています。当社は制御分野を中心にこれらの開発元と新たな代理店契約を結び、当社が開拓したMATLABユーザー向けにビジネス展開を図ってまいります。

また、新規プロダクトにつきましても、本年に入り従来に増して多数の海外開発元からビジネス案件を持ちかけられており、市場価値のある有力な商材の発掘に積極姿勢で臨んでいます。そして、今後はソフトウェアだけでなく測定機器・制御設計における検証用ボードなどハードウェアを組み合わせた販売も展開していく予定です。

**今後の市場性が期待される商材を積極的に投入し、次なる主力商品・製品を育成してまいります。**

新たなCAEのライセンス商材としては、米国Bluespec社との提携によりLSI開発を高効率化する電子システムレベル(Electronic System Level: ESL)のEDAツールの取り扱いをはじめました。LSIの開発工程を大幅に削減できる設計手法として注目されています。さらに、次世代薄型ディスプレイとして話題となっている有機EL関連のシミュレーションソフトウェアの取り扱いもはじめております。これらは、いずれも今後の市場性が期待される有力な商材と見込んでおります。一方、ITソリューション事業では、モバイル端末が企業の情報ツールとして本格的に普及してきましたが、それに関連したサーバーマネジメントサービスを新たに展開しております。これは、モバイル端末を対象とした安全で効率的なサーバーの管理・運営を行うサービスで、企業からの大型受注が期待されるビジネスです。また、自社開発ソフトウェアにつきましても、すでに音響解析ソフトウェアWAON、プラスチック解析ソフトウェア群、医用画像等の可視化ソフトウェア群を市場投入しておりますが、今後もさらに自社開発に力を入れ、売上高全体の10%を当面の目標としてまいります。

CAE受託ビジネスで国内ナンバーワンを目指すとともに、成長性の高いアジア地域へ積極的に進出してまいります。

技術革新が進む製造業を中心に、CAEに関するアウトソーシング需要は年々高まっております。CAEを扱える技術者がまだ少ないことがその要因の一つですが、当社はCAE受託ビジネスにも注力し、数年内に国内ナンバーワンのポジションを築いていく計画です。また、CAE技術者の育成を目的として昨年開講した「CAEユニバーシティ」により、CAEのさらなる普及と技術者の育成にも力を入れてまいります。海外戦略につきましては、中国に続き台湾・韓国への進出を計画しております。当社は成長性の高いアジア地域を戦略市場として位置付けており、国内で培ってきたCAEソリューションのビジネスモデルを展開してまいります。

新中期事業計画「Phoenix21（フェニックス21）」では、2011年3月期の売上高210億円、経常利益21億円（対売上比10%以上）を目標とします。

当社は、2005年4月にスタートした中長期事業計画を見直し、新たに中期事業計画「Phoenix21」を策定いたしました。主力ライセンス商品MATLABの取り扱い終了に伴う業績への影響を最小限に抑えるため、これまで述べてきたように様々な角度から事業拡大・強化施策を展開してまいります。数値目標は、2011年3月期に売上高210億円、経常利益21億円の達成を目指し、グループ丸となって、業容の拡大に取り組んでまいります。株主還元策につきましては、従来どおり配当性向30%を基本として実施してまいります。また、IR活動も引き続き積極的に行い、特に個人投資家向けへの取り組みを充実させてまいる所存です。

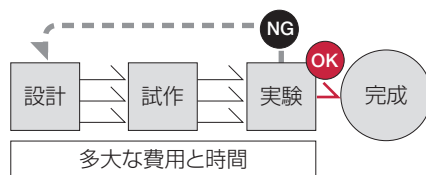
なお、2009年3月期は、売上高230億円、営業利益31億6000万円、経常利益32億7000万円、当期純利益19億7000万円を予想しております。

## ● 技術革新を舞台裏で支える影の主役、それが「CAE」です。

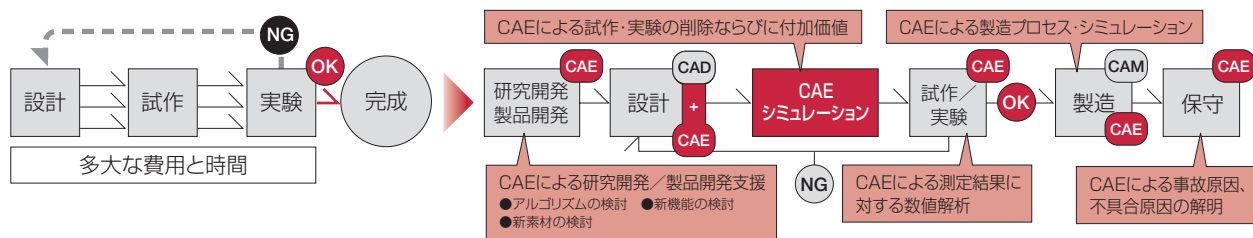
CAE、それは製品開発プロセスの大幅なコスト削減と迅速化を可能にするバーチャル・シミュレーション技術です。

製品開発など、一般にものづくりの現場では研究開発からはじまり、その後、設計、試作、実験という一連のプロセスを何度も繰り返しながら完成形を目指していきます。CAE (Computer Aided Engineering) は、それらの実験やテストをコンピュータ上でシミュレーションし、分析することで実際の試作や実験回数を減らし、コストを劇的に削減し、開発期間を大幅に短縮することを可能とします。つまり、価値の高い製品をタイムリーに、安い価格で市場投入する上で必要不可欠な技術といえます。また、CAEは、危険な実験はもとより、超高温下での検証や極小レベルなど事実上、実験不可能な状況をシミュレーションするケースにおいても欠かせない技術です。CAE技術は製品開発の要求仕様作成から設計、実験、製造、保守のすべての工程に利用可能であり、各工程において様々な役割を担っています。

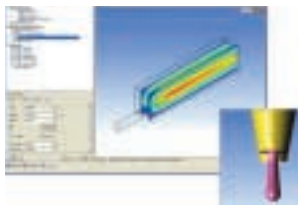
従来の設計・開発プロセス



CAE導入後の設計・開発プロセス



## あらゆるものづくり分野でニーズが高まるCAE技術。 サイバネットが提供するCAEの適用分野を紹介いたします。



### 機械・精密

機械構造の強度・振動解析や機械システムに関連する音響、熱伝導、衝撃など様々な物理現象を取り扱います。また、流体振動と構造振動が干渉する航空機の翼などのような複数の系が干渉する解析を可能にします。



### 数理工学

数式処理、数値解析、対話型プログラミング、モデリング、シミュレーションのための様々なツールを提供。開発期間短縮やコスト削減を図る「モデルベースデザイン」は、自動車業界を中心に広く浸透しています。



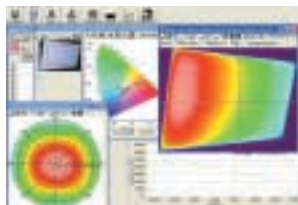
### ナノテクノロジー

ナノスケール構造物の電子デバイスへの応用に向け、実験主体のナノテクノロジー研究にコンピュータシミュレーションを活用したアプローチを加え、ナノデバイス開発促進を支援しています。



### 人間工学

「疲れにくい椅子」「使いやすい機器配置」など、人に優しい製品の開発をテーマとする「人間工学」の分野にもシミュレーション技術を提供し、コスト削減と開発の効率化を実現しています。



### 光学

自動車内外装照明などの設計に使用される照明設計解析ツール、カメラ、光通信などで必要とされる光学設計評価ツールなど光技術分野のトータルソリューションを提供しています。



### 最適設計支援

CAEを用いた設計プロセスで問題となるのが、ユーザによるパラメータの変更、解析等、一連のプロセスに対するトライアンドエラーです。このツールを用いることにより、設計プロセスを自動化、統合化、最適化し、開発業務を支援します。



### 電気・電子

小型・軽量かつ高機能のエレクトロニクス製品を作るため電子基板の薄型化や高密度化が進んでいます。こうしたニーズに対応する技術とともに設計の効率化を実現するソリューションを提供しています。



### 医用（可視化）

CT、MRI装置で撮影された画像を3D解析する、新しい画像診断技術の研究が行われています。例えば、脳動脈瘤内にかかる圧力、流速などを分析し、その結果から破裂を引き起こす原因を導き出すことが可能となります。

## 当期の概況

### 2008年3月期連結業績

当社グループは、主に製造業の新製品開発環境において、ますます、多様化かつ高度化、複雑化する顧客の要望に応えるため、様々なソリューションを提案することにより、更なる顧客満足度の向上に努め、販路を拡大してまいりました。特に、新規プロダクトの発掘、アプリケーションの開発ならびに自社開発体制の強化をはじめ、今後の当社グループ事業の重要な柱の一つに位置付けておりますC A Eの受託解析や受託開発ならびにコンサルティングを中心としたサービス事業の拡大に注力してまいりました。また、深刻化する高度な知識や技術をもったC A Eエンジニアの不足問題を抱える顧客の要望に応えるべく人材育成事業「C A Eユニバーシティ」を2007年10月に立上げました。

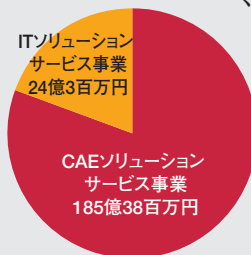
2008年3月期の業績については、第1四半期に実施した本社移転に伴う一過性の費用や家賃等の増加もありましたが、業務の効率化ならびに経費圧縮に努めた結果、営業利益、経常利益、当期純利益ともに計画を上回ることができました。当期の売上高は209億42百万円（前年比10.2%増）、営業利益は29億26百万円（前年比15.2%増）、経常利益は30億85百万円

（前年比9.1%増）、当期純利益は18億10百万円（前年比19.4%増）となりました。

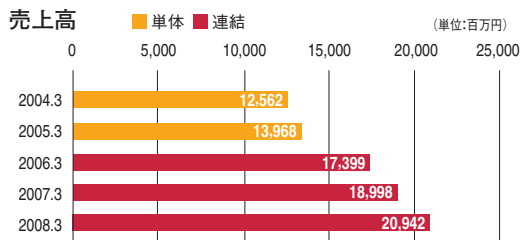
なお、当連結会計期間より事業領域の拡大に伴い、事業の種類別セグメントの名称を「ネットワークソリューションサービス事業」から「ITソリューションサービス事業」に変更しております。名称の変更による主要商品・サービス等の変更はありません。

### 2009年3月期の見通し

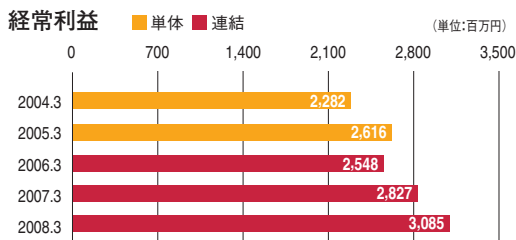
サブプライムローン問題や原油価格の影響により世界経済の減速懸念が強まっております。しかしながら、当社グループが提供するC A Eソリューションサービスは、日本のものづくり企業における品質向上、開発期間の短縮、開発コスト削減など、製品開発分野に大きく貢献することから、引き続き高い需要を見込めるものと予想しております。2009年3月期の売上高は、230億円（前年比9.8%増）、経常利益32億70百万円（前年比6.0%増）、当期純利益19億70百万円（前年比8.8%増）を見込んでおります。



#### 売上高



#### 経常利益





## セグメント別の概況

### CAEソリューションサービス事業

微細な半導体回路から巨大なプラントまで、あらゆる産業領域にコンピュータを駆使したシミュレーション技術であるCAE（Computer Aided Engineering）ソリューションを提供し、製品開発の効率化、迅速化ならびに高品質化に貢献しています。

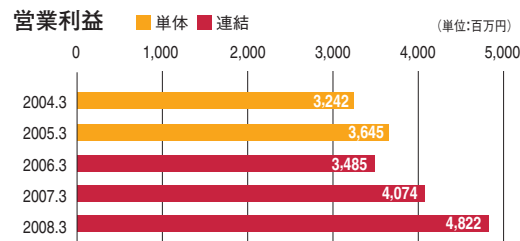
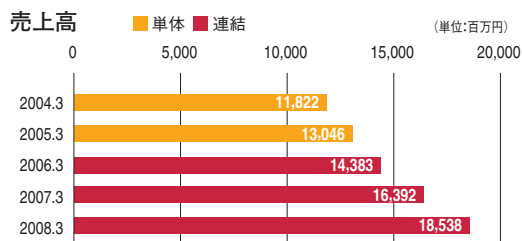
### 事業概況

数値・制御・通信系分野は、自動車および電機メーカーをはじめとする既存顧客の強い需要に支えられ、販売が好調に推移しました。機械系分野は、大手総合電機メーカーやデジタル素材メーカーからの受注を中心に概ね堅調に推移しました。光学系分野ならびにエレクトロニクス系分野についても堅調な動きとなっています。受託解析・受託開発等のサービス事業は、原子力産業からの受託解析サービスの需要が旺盛となっており、試作品の削減に注力する自動車産業からの受託解析サービスも大幅に伸びました。半導体産業においては、電子機器の小型化などに伴い、当社の高度な解析技術への需要が増し売上大きく貢献しました。新規商品分野は、

2007年9月に販売を開始した3次元CADシステム向けの公差解析ソフトウェアが好調な立ち上がりとなり、業績に貢献しました。また、最適化ソフトウェアによるソリューション提案が顧客満足度向上に結びつき、販売が好調に推移しました。以上の結果、売上高は185億38百万円（前年比13.1%増）、営業利益は48億22百万円（前年比18.4%増）となりました。

### 来期の見通し

数値・制御・通信系分野は、MATLABの販売代理店契約終了を2009年6月30日に控えておりますが、2009年3月期の業績への影響はないものと考えており、既存顧客を中心に強い需要に応えるべく販売・技術サポート体制を維持してまいります。機械系分野ならびに光学系分野は、引き続き安定した成長を見込んでおります。エレクトロニクス系分野は、顧客のニーズにあったサービスを提供し、市場を拡大してまいります。新規商品については、前年に投入した新規ソフトウェア群が立ち上がり、業績に貢献するものと予想しております。サービス事業では原子力関係、自動車業界向けの大口需要が見込まれております。



## セグメント別の概況

### ITソリューションサービス事業

モバイル向けのセキュリティサービス、IT資産管理、ネットワーク・PCの暗号化ならびにレガシーアクセスを提供することにより、企業のITインフラ構築を支援します。さらにスキルの企業内標準化やトレーニング、Webを利用したコラボレーションサービスにより企業のITパフォーマンス向上を支援するソリューションを提供します。

### 事業概況

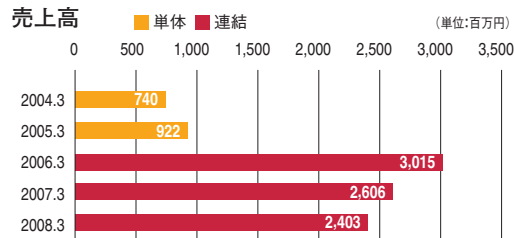
ITソリューション分野においては、業務パフォーマンス改善ソフトウェアが一般ビジネス分野で導入が進み、加えて簡易機能版についても需要が膨らんでまいりました。ハードディスク暗号化ソフトウェアやネットワーク暗号化ソフトウェアなどのセキュリティソフトウェアについては、横ばいの結果となりましたが、上期から販売を開始したSaaS(ASP)形態のセキュリティサービスは順調に推移しました。また、主力商品の一つである端末エミュレータは、市場縮小の影響を受け前年に比べ微減の結果となりました。内部統制リスク管理システムは、上期に年間計画をほぼ達成し好調な推移となりました。セキュリティ関連のウイルス対策ソフトウェアについては、2006年

9月に大口顧客であった二次代理店が一次代理店に昇格したことにより、大幅な売上高の減少となりましたが、新たなウイルス対策ソフトウェアの法人向け販売代理店権を取得し、販売活動を開始いたしました。以上の結果、売上高は24億3百万円(前年比7.8%減)、営業利益は1億4百万円(前年比0.7%減)となりました。

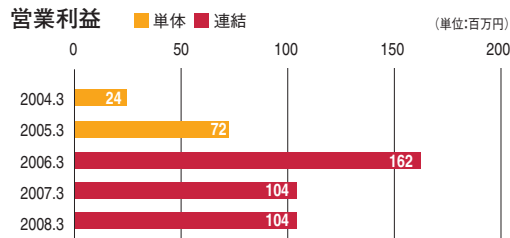
### 来期の見通し

業務パフォーマンス改善ソフトウェアおよびその簡易機能版は、生産性の向上や業務の見える化を目的とした需要に支えられ、2008年度の注力商品として位置づけております。また、SaaS形態のセキュリティサービスは、大型受注を獲得しており、今後の大きな成長を期待しております。端末エミュレータについても大型バージョンアップ案件の受注が見込まれております。ハードディスク暗号化ソフトウェアは、中国での利用申請支援サービスを開始したことから、販売増につながるものと見込んでおります。新たに取り扱いをはじめたウイルス対策ソフトウェアについては、販売戦略の強化により市場シェア獲得に注力してまいります。

#### 売上高



#### 営業利益



2007  
6.27



業務の拡大に備えるため、  
分散している事務所を産学協同推進地区  
として発展が予定されている  
「秋葉原」へ本社を移転

2007  
10.22

## CAEユニバーシティを開講

CAEツールの理論を知り、より効率的に、  
効果的にツールを使いこなしたい方にお奨めの教育プログラムです。

**CAEツールを「使える」から「使いこなせる」へ**

CAEツールの「使いこなせる」を目指す方にお奨めの教育プログラムで、  
どのCAEツールにも必要な理論を、オリジナルテキストにて学習していただきます。  
講義は基礎講座、専門講座、実習と知識が体系的に身に付く構成となっています。



2007  
11.2

情報セキュリティマネジメントの国際標準規格である  
「ISO/IEC 27001：2005」の認証を取得

2008  
2.25

環境マネジメントの国際標準規格である  
「ISO 14001：2004」の認証を取得

■連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 2007年3月31日現在	当連結会計年度 2008年3月31日現在
資産の部		
流動資産	12,976	11,259
固定資産	2,793	5,401
資産合計	15,769	16,660
負債の部		
流動負債	5,148	5,183
固定負債	493	509
負債合計	5,642	5,693
純資産の部		
株主資本	10,077	11,215
純資産合計	10,127	10,966
負債純資産合計	15,769	16,660

■連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計		
2007年3月31日残高	995	909	8,849	△676	10,077	65	△15	49	0	10,127
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△507		△507					△507
当期純利益			1,810		1,810					1,810
自己株式の取得				△177	△177					△177
自己株式の処分			△23	35	11					11
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）						△190	△107	△297	0	△298
連結会計年度中の変動額合計	—	—	1,279	△142	1,137	△190	△107	△297	0	839
2008年3月31日残高	995	909	10,129	△818	11,215	△125	△123	△248		10,966

## ■連結損益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 2006年4月1日から 2007年3月31日まで	当連結会計年度 2007年4月1日から 2008年3月31日まで
売上高	18,998	20,942
売上原価	11,690	12,469
売上総利益	7,308	8,473
販売費及び一般管理費	4,767	5,546
営業利益	2,540	2,926
営業外収益	287	160
営業外費用	0	2
経常利益	2,827	3,085
特別利益	8	140
特別損失	227	291
税金等調整前当期純利益	2,608	2,935
法人税、住民税及び事業税	1,246	1,095
法人税等調整額	△153	29
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△1	0
当期純利益	1,516	1,810

## ■連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 2006年4月1日から 2007年3月31日まで	当連結会計年度 2007年4月1日から 2008年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,415	1,851
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,054	△656
財務活動によるキャッシュ・フロー	△434	△671
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	△20
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,063	503
現金及び現金同等物の期首残高	3,081	2,018
現金及び現金同等物の期末残高	2,018	2,522

# 会社データ

## 会社概要

【商号】サイバネットシステム株式会社  
CYBERNET SYSTEMS CO.,LTD.

【証券コード】4312

【本社所在地】東京都千代田区神田練堀町3番地

【設立】1985年(昭和60年)4月17日

【資本金】9億9500万円

### 【事業内容】

制御設計、構造解析、光学設計、照明解析、電子回路設計、熱流体解析、機構解析、音響解析、プリ・ポスト処理、数式処理、シミュレーション言語、通信等、多岐にわたる世界一流のCAEソフトウェアおよびイノベーション支援ソフトウェアならびにITソリューション関連ソフトウェアの販売

各種セミナーをはじめとするユーザー教育、技術サポートおよび受託解析・コンサルティング等のプロフェッショナルサービスの提供、ならびにインターフェース、モデルおよび解析モジュール等の開発

### 【子会社】

#### 連結子会社

##### 株式会社ケイ・ジー・ティー

所在地：東京都新宿区

事業内容：

科学技術計算分野への可視化ソフトウェア、医用画像処理ソフトウェア、ネットワークセキュリティーソフトウェア、内部統制管理システムの開発・販売と運用に関するコンサルティング

##### 株式会社プラメディア

所在地：東京都中野区

事業内容：

樹脂流動解析、成形解析ソフトウェアの開発・販売、受託研究、高分子材料の物性、成形性に関わる研究開発、ソフトウェア開発、技術サポート、解析コンサルティング、技術者教育

#### 非連結子会社

##### 西西安工程模擬軟件(上海)有限公司(略称：CCA)

所在地：中華人民共和国上海市

事業内容：

中国におけるCAE教育、受託解析、コンサルテーション、プロダクト販売を含めたCAEトータルソリューション提供

##### 莎益博設計系統商貿(上海)有限公司(略称：CCS)

所在地：中華人民共和国上海市

事業内容：

中国におけるEDAおよび光学ソフトウェアの販売、サポート、教育、コンサルティング、受託設計等

## 役員

代表取締役社長 田中 邦明

専務取締役 三平 久悦

常務取締役 高橋 宏

取締役 溝口 陽一

取締役 重光 貴明

取締役 加藤 浩 (非常勤)

常勤監査役 野村 吉晴

監査役 立田 三彦

監査役 中島 俊吉

### ホームページのご紹介

当社のホームページにてより詳しいIR情報をご覧いただけます。



URL <http://www.cybernet.co.jp/>

個人投資家向けのメールサービスを実施しています。こちらへ登録いただきますと、東京証券取引所に対して適時開示した会社情報やIR活動案内等をインターネット・メールにて随時お知らせいたします。

[https://www.cybernet.co.jp/forms/ir\\_mail/](https://www.cybernet.co.jp/forms/ir_mail/)

## 株式の状況

発行可能株式総数……………1,296,000株  
発行済株式の総数……………324,000株  
株主数……………9,639名

## 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
富士ソフト株式会社	168,075	51.88
ビービーエイチ フォー フィデリティー ロープライズ ストックファンド	11,759	3.63
サイバネットシステム株式会社	11,632	3.59
井上恵久	4,404	1.36
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	3,635	1.12
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,609	1.11
サイバネットシステム社員持株会	3,599	1.11
井口忠之	2,430	0.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口4)	2,120	0.65
三菱UFJ信託銀行株式会社 (信託口)	1,113	0.34

## 所有者別株式分布状況

	株主数(人)	持株数(株)	株主数比率(%)
個人その他	9,511	106,586	98.67
外国法人等	41	16,597	0.43
その他国内法人	36	169,223	0.37
金融機関	26	16,278	0.27
証券会社	24	3,684	0.25
自己名義株式	1	11,632	0.01
合計	9,639	324,000	100.00

## 株主メモ

### 事業年度

4月1日から翌年3月31日まで

### 定時株主総会

毎年6月

### 基準日

定時株主総会権利行使株主確定日 3月31日  
期末配当金受領株主確定日 3月31日  
中間配当金受領株主確定日 9月30日

### 株主名簿管理人

東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社

### 同事務取扱場所

東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社 本店

### 同事務取扱所

[郵便物発送先・電話お問合せ先]

〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)

### 同取次所

中央三井信託銀行株式会社 全国各支店  
日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

### 公告方法

電子公告の方法により行います。ただし、事故  
その他やむを得ない事由により電子公告をす  
ることができない場合は、日本経済新聞に掲載い  
たします。

公告掲載URL <http://www.cybernet.co.jp/>

## IR活動の取組み

個人投資家向け決算説明会を本社にて定期的を開催

当社は、個人株主をはじめ、個人投資家を対象とした第2四半期決算、本決算説明会を本社にて開催しております。開催日は原則として同決算発表日の3営業日後を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

詳細につきましては、下記の広報・IR室にメールまたは、電話にてお問合せください。



個人投資家向け第2四半期決算説明会（本社にて開催）

2008年11月5日（水）18:30より

他社主催個人投資家向け説明会参加予定イベント

2008年 6月28日（土）大和インベスターズ・リレーションズ主催 東京

2008年 7月 5日（土）大和インベスターズ・リレーションズ主催 名古屋

2008年 9月 6日（土）モーニングスター／株式新聞主催 大阪

2008年12月 6日（土）モーニングスター／株式新聞主催 福岡

問合せ先 広報・IR室

T E L 03-5297-3066

メール [irquery@cybernet.co.jp](mailto:irquery@cybernet.co.jp)

つくる情熱を、支える情熱。

**CYBERNET**

<http://www.cybernet.co.jp/>